

令和5(2023)年度 比治山大学・比治山大学短期大学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。授業担当者が履修者の課題提出状況等を把握し、単位修得に向けた支援・働きかけを行っている。
学修成果	「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」のうち、「Ⅲ 成果について」の「④ 自分の将来に役立つ内容であった」「⑤ 全体的に満足している。」の項目を分析することにより、学生の学修成果を把握している。教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会と情報共有して本プログラムの評価・改善を図っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの内容の理解度に関する項目について、91.5%が「充分理解できた」(17.1%)・「まあまあ理解できた」(74.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学生の理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの後輩等への推奨度に関する項目について、96.3%が「ぜひ勧めたい」(52.4%)・「できれば勧めたい」(43.9%)と回答した。後輩へ勧める理由に関する項目の回答をあわせて、後輩等他の学生への推奨度を把握している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「比治山大学・比治山大学短期大学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関する説明チラシを作成し、オリエンテーション等で周知することで、履修者数・履修率の向上を図っている。令和6(2024)年度からは、「情報リテラシー」に加えて「データサイエンス入門」をも全学必修科目とする。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業後3年程度経過した卒業生を対象とした「卒業後アンケート」、本学学生の採用実績を有する企業等を対象とした「就職先アンケート」により、本プログラムを修了した卒業生の活躍状況、企業からの評価を把握する仕組みを設けている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	地域の経済界の状況を把握している中国経済連合会常務理事に「外部アドバイザー」を委嘱し、本プログラムの教育内容・運用状況について意見を求め、評価・改善を図っている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの学修する意義に関する項目について、97.5%が「とても感じている」(34.1%)・「ある程度は感じている」(63.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学修の意義についての理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの授業内容をよりわかりやすくするための改善方法に関する項目について、「社会で活用されている事例を増やす」(43.9%)、「データを活用する演習を増やす」(28.0%)などの回答がみられた。これらの結果をふまえて授業担当者が「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。